

河川整備

土岐川は、観測史上最大となった平成元年9月洪水と平成11年6月洪水等の相次ぐ洪水被害を受け、平成12年度～平成15年度に復旧事業が実施された。この事業により流下能力が一番低い「和合狭窄部」の拡幅が実施され、また小里川ダムが平成15年に完成したことにより、小里川合流下流の瑞浪では治水安全度が大きく向上した。しかしながら、近年では気候変動の影響等により、豪雨災害が頻発化する傾向にある。瑞浪市では洪水時における普通河川の氾濫を防ぐため、普通河川の改修を進めるとともに、水位を下げる浚渫工事を緊急かつ集中的に実施している。

(浚渫) 川底に堆積する土砂を除き、川底を掘り下げ断面を確保し、流れを阻害する樹木を伐採する。財源として国が創設した「緊急浚渫推進事業債」を活用し、事業の推進を行っている。

〈課題〉

短時間豪雨の発生増加や台風の大型化等により、浸水被害が頻発している。今後、気候変動等による水災害の激甚化・頻発化が予想される。このように近年の相次ぐ河川氾濫などを踏まえ、危険箇所解消のため、緊急かつ集中的に浚渫を行う必要がある。しかし、一度浚渫したとしても年数が経過すると堆積が発生することから、引き続き事業を継続できるよう、財源の確保について考えなければならない。



着手前 日吉町：平岩川



完了 日吉町：平岩川

(改修) 浸水被害防止のために、河道掘削、護岸工、築堤、堰改築等により流下能力の増大を図る。財源として国が創設した「緊急自然災害防止対策事業債」を活用し、事業の推進を行っている。しかし、「緊急自然災害防止対策事業債」は令和7年度までの時限処置であることから、来年度で終わることとなる。

〈課題〉

瑞浪市内には、現時点にて改修工事を行っている河川以外にも浸水被害の危険度が高い河川は多くあることを踏まえ、令和7年度以降も引き続き事業を継続できるよう、財源の確保について考えていかなければならない。